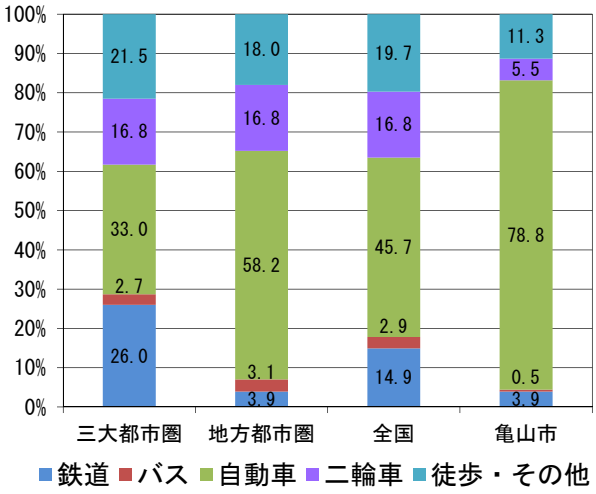
第４章　交通の現状

１．人の動き

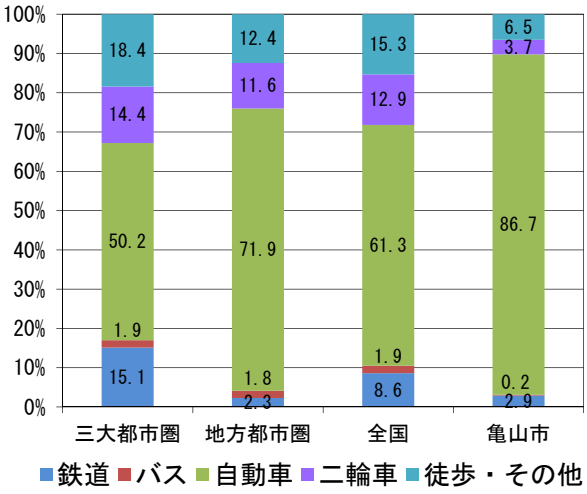
本市の人の移動の際の代表交通手段をみると以下のとおりで、平日、休日ともに移動のための代表交通手段は、自動車が 80%前後で自動車を中心とした移動が顕著となっています。

地方都市圏や全国平均と比較しても自動車分担率は高く、鉄道やバスといった公共交通分担率は非常に低くなっています。

目的別に代表交通手段をみると、通勤における自動車利用は調査ゾーンの内々でも約 80%が自動車利用で、徒歩・自転車利用は 16.1%と低い状態です。また、医療・福祉、小規模小売店、大規模小売店の利用も 80%以上が自動車利用です。

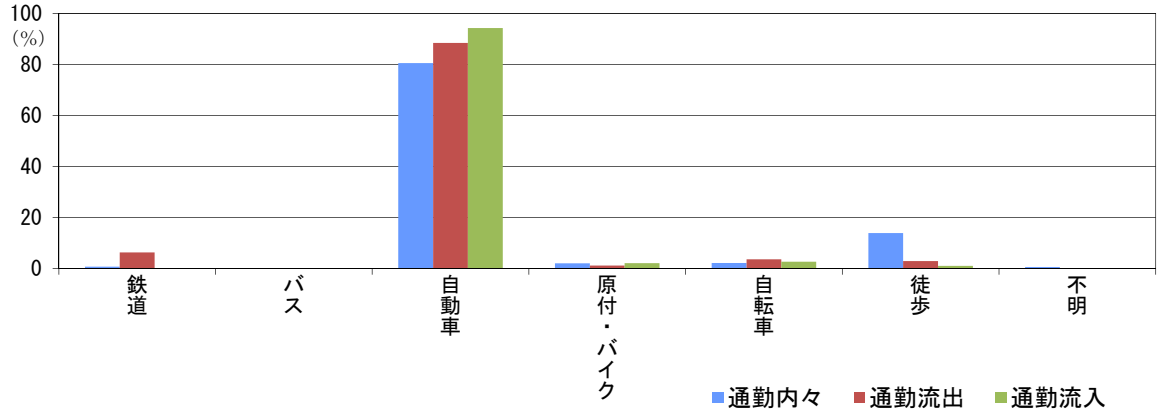


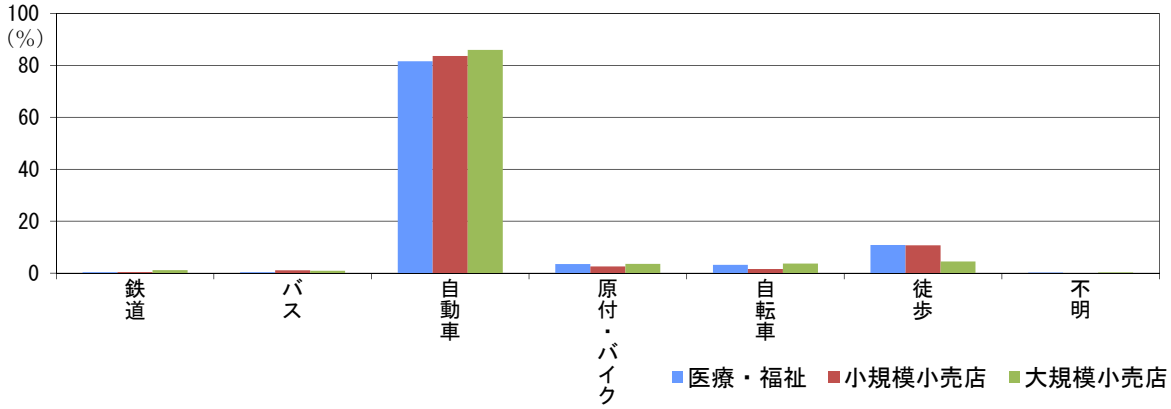
■ 代表交通手段分担率（平日）



■ 代表交通手段分担率（休日）

出典：全国都市交通特性調査【2010(平成 22)年】





■ 目的別代表交通手段（平日）

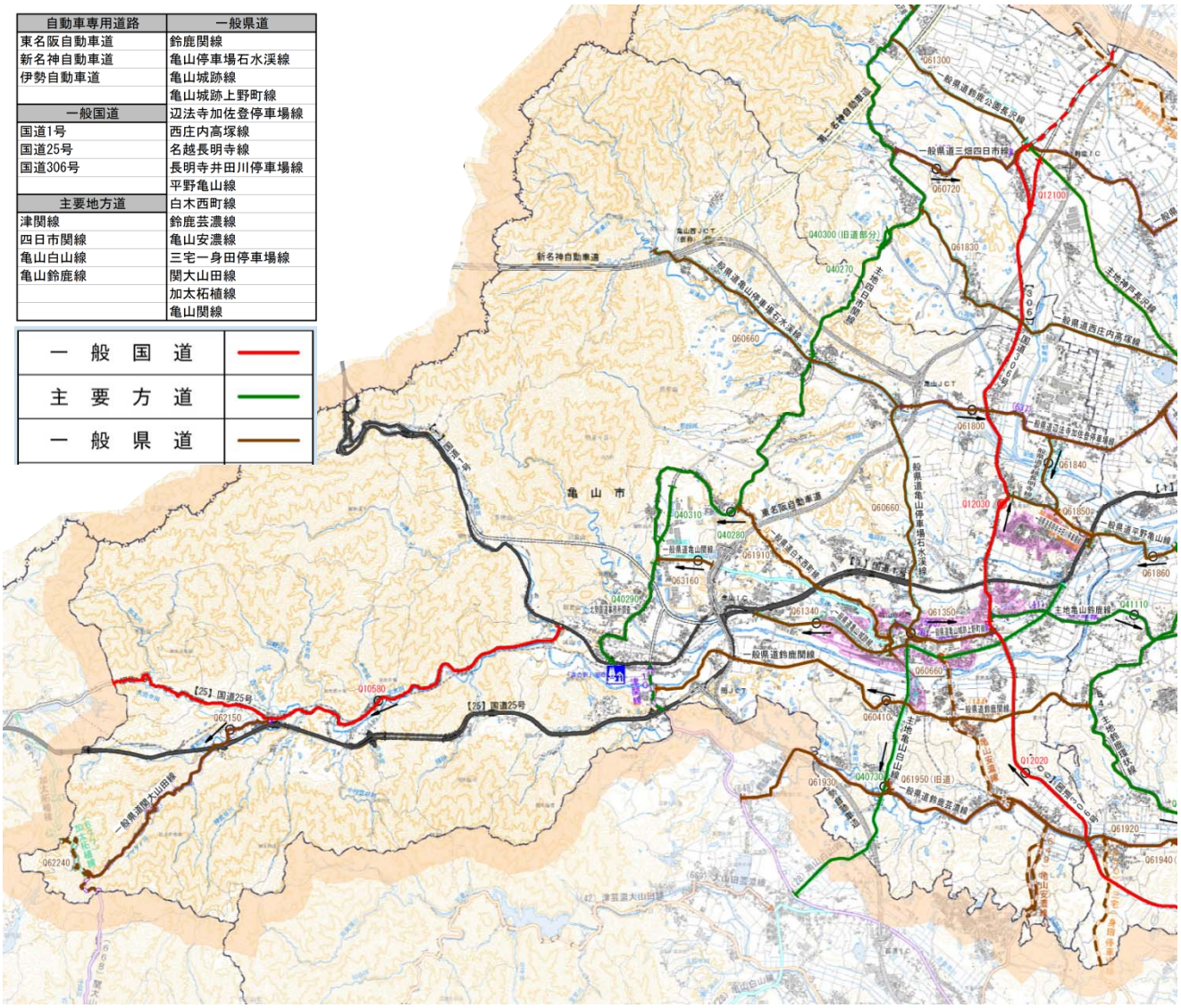
出典：第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査【2011（平成 23）年 10 月～11 月実施】

２．道路と自動車交通の状況

本市が交通の要衝として発展してきた歴史でもわかるように、現代でも交通結節点としての役割を担っています。

その状況は下図に示すとおりで、東名阪自動車道、新名神高速道路、伊勢自動車道の 3 つの高速道路の結節点であるとともに、一般国道が 3 路線、主要地方道が 4 路線、一般県道が 16 路線と非常に恵まれた道路環境にあります。

また、新名神高速道路（新四日市ＪＣＴ～亀山西ＪＣＴ）の開通が 2018（平成 30）年度に予定されるとともに、都市計画道路の和賀白川線や亀山関線の整備が予定されるなど、広域道路網及び市内交通網がさらに充実します。



■ 亀山市内国道・県道の配置状況

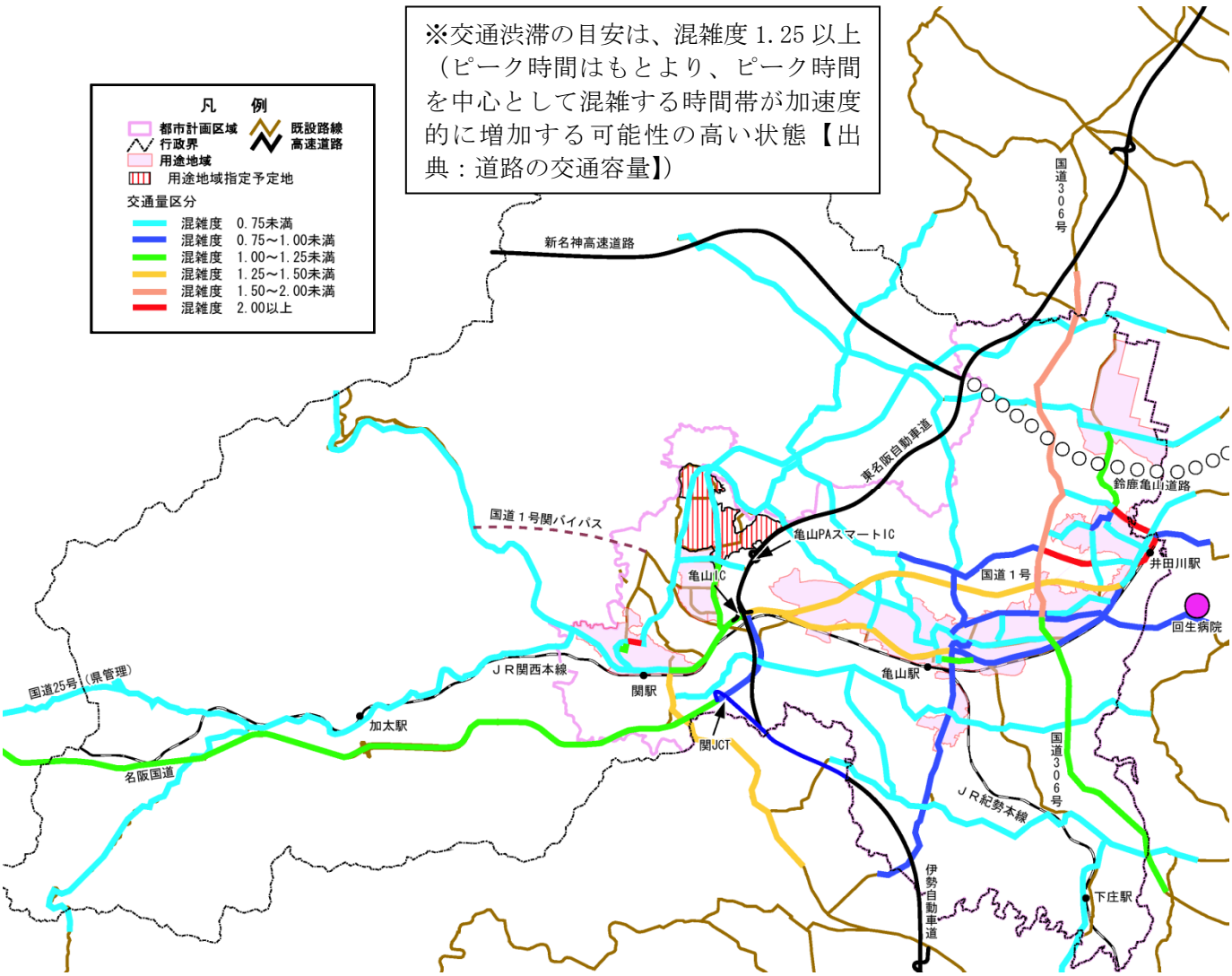
出典：2010（平成 22）年度道路交通センサス調査単位区間図（鈴鹿建設事務所管内図の亀山市部分）

※ ▭ は、2005（平成 17）年国勢調査における人口集中地区（DID）の範囲

2010（平成 22）年全国道路交通情勢調査及び亀山市交通量調査結果 2010（平成 22）年度をもとに、路線別の混雑度を図化したのが交通混雑度図です。この図より本市における一般道の交通混雑の特徴を整理すると以下のとおりで、恵まれた道路環境であるため代表的交通手段が自動車利用に集中するため、主要区間で交通渋滞が発生しています。

・一般的に交通渋滞の目安である混雑率 1.25 を超えている路線は、一般国道 1 号の亀山ＩＣ東側の 2 車線部分、国道 306 号の（主）鈴鹿亀山線より北側、（主）津関線、（一）亀山城跡線（旧国道 1 号）、（一）長明寺井田川停車場線及び市道の一部です。また、一部の区間で混雑度 2.0 以上の路線がありますが、これは道路幅員が狭あいな区間（許容可能交通量が 499 台と非常に少ない）で交通量が特に多いことによるものではありません。

・主要幹線道路で特に混雑度が高いのは、国道 306 号の（主）亀山鈴鹿線より北側で混雑度 1.5 を超えており、ピーク時のみの混雑のみならず日中の連続的混雑の状態と考えられます。



■交通混雑度図

出典：亀山市幹線道路整備検討のための基礎調査（2012（平成 24）年 3 月）

３．鉄道の状況

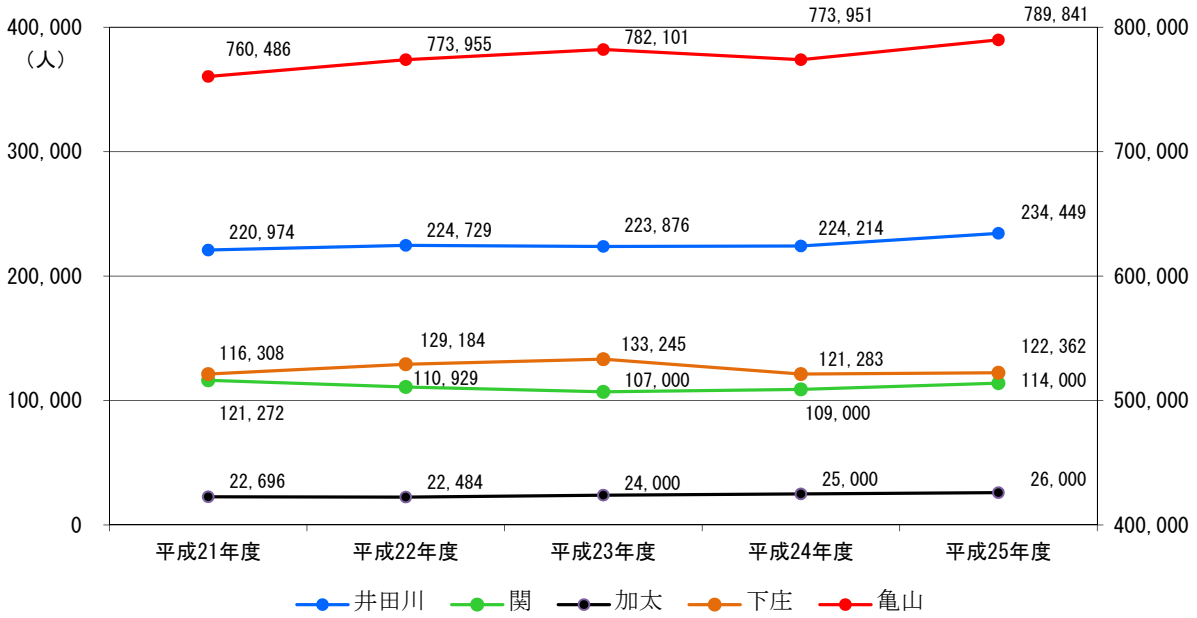
本市内には JR 関西本線の 4 駅及び JR 紀勢線の 1 駅があり、亀山駅と井田川駅はピーク時運行本数（片道）が 3 本あります。それぞれの駅の乗車人員は以下の表及びグラフに示すとおりで、最近 5 年間では関駅を除いて増加していますが、1 日当たり乗車人員では、亀山駅の 2,164 人以外は 1,000 人以下です。また、駅から 800m圏域の人口カバー率は、用途地域内で 27.6%、市域全体では 14.0%に過ぎません。

■ 鉄道乗車人員数の推移

（単位人）

路線名	駅名	2009（平成21）年度	2010（平成22）年度	2011（平成23）年度	2012（平成24）年度	2013（平成25）年度	増減比（H25/H21）	2013（平成25）年度日平均乗車人員数
JR関西本線	井田川	220,974	224,729	223,876	224,214	234,449	1.06	642
	亀山	760,486	773,955	782,101	773,951	789,841	1.04	2,164
	関	116,308	110,929	107,000	109,000	114,000	0.98	312
	加太	22,696	22,484	24,000	25,000	26,000	1.15	71
JR紀勢線	下庄	121,272	129,184	133,245	121,283	122,362	1.01	335

出典：三重県統計書



■ 鉄道駅の徒歩圏（800m）人口カバー率(2015(平成 27)年 4 月 1 日人口)

区分		2015（平成 27）年現況		
		総人口(人)	カバー人口（人）	人口カバー率（%）
都市計画区域内	用途地域内	22,364	6,167	27.6
	用途地域外	22,824	425	1.9
	計	45,188	6,592	14.6
都市計画区域外		4,612	378	8.2
市全体		49,800	6,970	14.0

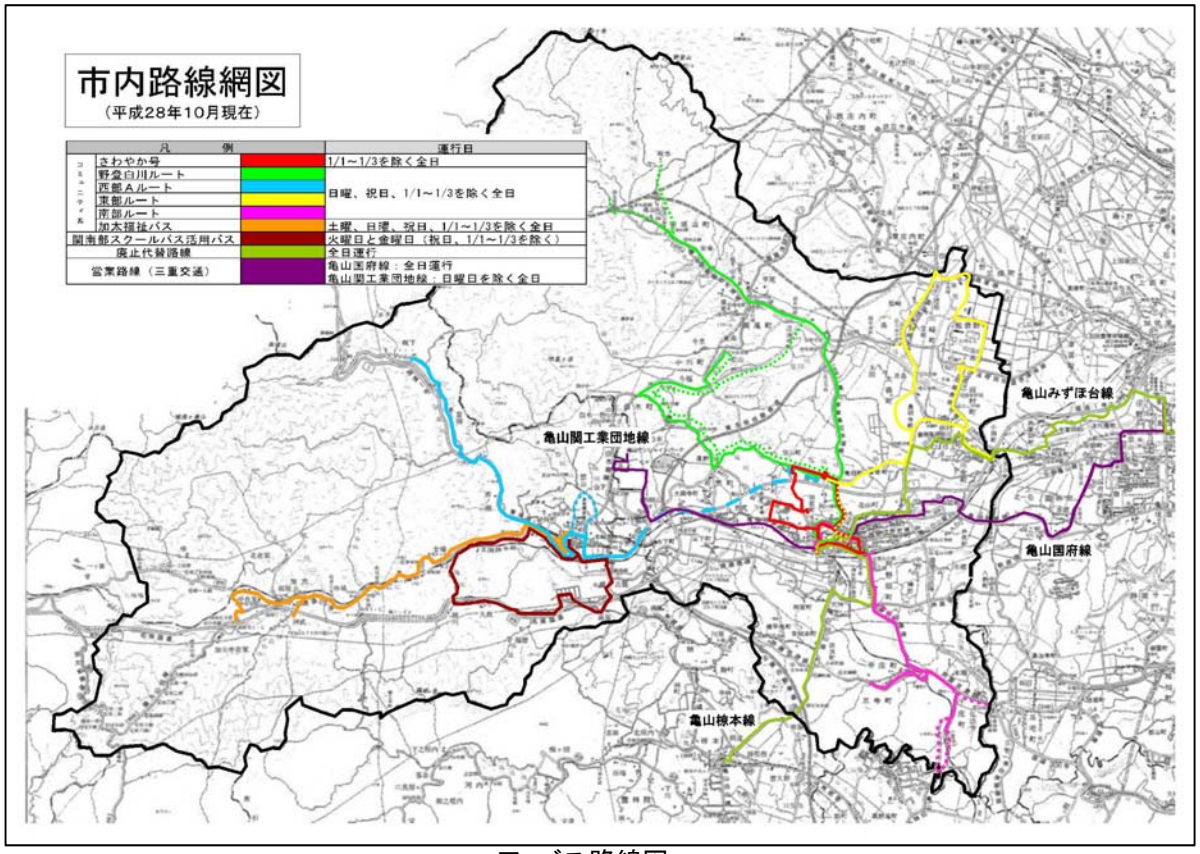
４．バスの状況

バスの運行状況は、以下に示すように三重交通営業路線が 2 路線、三重交通廃止代替路線が 2 路線、亀山市自主運行が 6 路線の合計 10 路線が運行されています。

自主運行バスの内、まちなか循環のさわやか号は都市拠点である亀山駅を中心に市役所や医療・福祉拠点、商業施設等を連絡し、まちなかの活性化を支援・誘導する路線として設置されています。また、地域生活バスは、幹線的バスを補完し、各地域から都市拠点（亀山駅周辺）及び鉄道駅、医療・福祉拠点へのアクセス路線として設置されています。

■バス運行状況　　2016（平成 28）年 10 月現在

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">路線名</th><th colspan="2">運行区間</th><th>運行回数</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>起　点</th><th>終　点</th><th>（回/日）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">三重交通営業路線バス</td><td colspan="2" rowspan="2">亀山国府線</td><td rowspan="2">亀山駅</td><td>平田駅</td><td rowspan="2">15</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>鈴鹿中央病院</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">亀山関工業団地線</td><td>亀山駅</td><td>関工業団地</td><td>23</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">三重交通廃止代替路線バス</td><td colspan="2">亀山みずほ台線</td><td>亀山駅</td><td>平田駅</td><td>27</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">亀山椋本線</td><td>亀山駅</td><td>椋本</td><td>19</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="13">亀山市
自主運行バス</td><td colspan="2">さわやか号</td><td>亀山駅</td><td>亀山駅</td><td>12</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">野登・白川地区自主運行バス</td><td rowspan="2">野登ルート</td><td>亀山駅</td><td>池山西</td><td rowspan="2">9</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>亀山駅</td><td>石水渓</td></tr>
<tr><td>白川ルート</td><td>亀山駅</td><td>小川</td><td>3</td><td></td></tr>
<tr><td>野登・白川ルート</td><td>亀山駅</td><td>池山西</td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">東部ルート</td><td rowspan="4">亀山駅</td><td>亀山駅</td><td rowspan="5">8</td><td rowspan="5">井田川駅 2 便</td></tr>
<tr><td>東野口</td></tr>
<tr><td>長明寺口</td></tr>
<tr><td>総合保健
福祉センター</td></tr>
<tr><td>総合保健
福祉センター</td><td>総合保健
福祉センター</td></tr>
<tr><td>井田川駅</td><td>のぼのの森公園</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">南部ルート</td><td rowspan="2">亀山駅</td><td>弘法寺</td><td rowspan="3">12</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>下庄駅</td></tr>
<tr><td>下庄駅</td><td>三寺</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">西部Ａルート</td><td>総合保健
福祉センター</td><td rowspan="2">伊勢坂下</td><td rowspan="3">12</td><td rowspan="3">総合保健福祉センター6 便</td></tr>
<tr><td>関駅</td></tr>
<tr><td>総合保健
福祉センター</td><td>関支所</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">加太地区
福祉バス</td><td>加太駅</td><td rowspan="2">中在家車庫</td><td rowspan="2">9</td><td rowspan="2">関支所 2 便</td></tr>
<tr><td>関支所</td></tr>
</table>



■ バス路線図

■バスにおける旅行時間（抜粋）　　2016（平成 28）年 10 月現在

区間		旅行時間	備考（運行ルート）
起点	終点		
総合保健福祉センター	亀山駅	9 分	さわやか号
川崎地区ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ		27 分	東部ルート
下庄駅		26 分	南部ルート
昼生地区ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ		28 分	
坂本棚田		30 分	野登ルート
両尾（野登地区ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ）		15 分	
白川小学校		20 分	白川ルート
小川（小川生活改善ｾﾝﾀｰ）		24 分	
川崎（川崎地区ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ）	井田川駅	14 分	東部ルート
鈴鹿馬子唄会館	関駅	16 分	西部 A ルート
	総合保健福祉ｾﾝﾀｰ	30 分	
加太小学校	加太駅	6 分	加太地区福祉バス
	関支所	19 分	

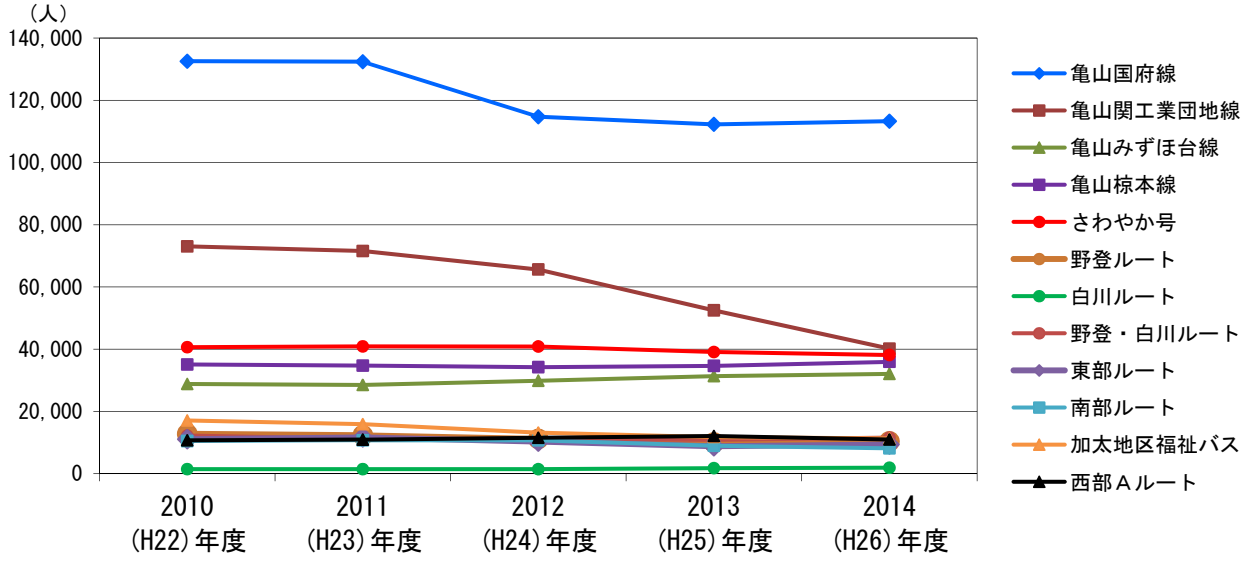
バス乗車人員数の推移は以下のとおりで、2010（平成 22）年に比較して増加しているのは廃止代替路線、白川ルート、西部Ａルートのみで他の路線は減少し、合計でも 16%減少しています。その中でも減少率が高いのは、営業路線の亀山関工業団地線（45%減）と加太地区福祉バス（34%減）です。

なお、バス停の徒歩圏 300mとして人口カバー率を算定すると、市全体でも 75.5%と高い率であり、市内の広い範囲でバスサービスは行われています。

■バス乗車人員数の推移

（単位：人）

路線名			2010（平成22）年度	2011（平成23）年度	2012（平成24）年度	2013（平成25）年度	2014（平成26）年度	増減比率（H26/H22）
営業路線バス	亀山国府線		132,534	132,391	114,707	112,271	113,272	0.85
	亀山関工業団地線		73,026	71,551	65,621	52,497	40,160	0.55
廃止代替路線バス	亀山みずほ台線		28,787	28,499	29,855	31,347	32,072	1.11
	亀山椋本線		35,074	34,723	34,232	34,646	35,938	1.02
自主運行バス	さわやか号		40,640	40,887	40,868	39,079	38,144	0.94
	野登・白川地区自主運行バス	野登ルート	12,793	12,324	11,156	10,003	10,359	0.81
		白川ルート	1,433	1,432	1,424	1,758	1,887	1.32
		野登白川ルート	12,213	11,158	11,165	10,876	11,562	0.95
		3ルート合計	26,439	24,914	23,745	22,637	23,808	0.90
	東部ルート		11,063	11,613	10,293	8,800	9,349	0.85
	南部ルート		10,467	10,708	10,703	8,962	8,147	0.78
	加太地区福祉バス		17,060	15,881	13,159	11,757	11,313	0.66
	西部Ａルート		10,701	10,930	11,521	12,090	10,966	1.02
合計			385,791	382,097	354,704	334,086	323,169	0.84



出典：亀山市調べ

■バス停の徒歩圏（300m）人口カバー率（2015（平成 27）年 4 月 1 日人口）

区分		2015（平成27）年現況		
		総人口（人）	カバー人口（人）	人口カバー率（%）
都市計画区域内	用途地域内	22,364	18,774	83.9
	用途地域外	22,824	15,274	66.9
	計	45,188	34,048	75.3
都市計画区域外		4,612	3,570	7.7
市全体		49,800	37,618	75.5

５．公共交通への市民意識

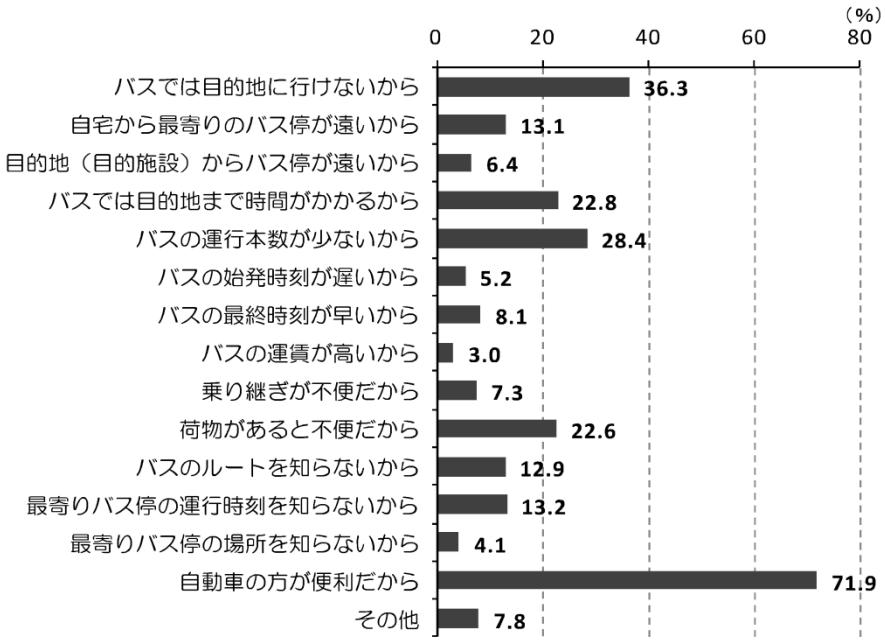
公共交通に対する市民意識を亀山市地域公共交通計画の市民アンケート（2012（平成 24）年 3 月 1 日～10 日実施：本市に居住する 15 歳以上の市民に 5,000 通無作為抽出郵送方式）から抜粋すると以下のとおりです。

バスを利用しない理由の 1 番は「自動車の方が便利だから」が 71.9%を占めています。次に多いのは「バスでは目的地に行けないから」「バスの運行本数が少ないから」「バスでは目的地まで時間がかかるから」「荷物があると不便だから」と、バスの利便性に関する問題が 20%以上となっています。

週に 1 回以上利用している施設については、1 位が川崎地区を除いて「エコータウン」と本市の商業拠点となっています。川崎地区では井田川駅が 1 番で、他地区についても鉄道駅の隣接地区である井田川地区、関南部地区を除いて最寄りの鉄道駅が２位となっています。

バスで行きたい施設についても、「エコータウン」と「鉄道駅」が 1 位、2 位を占めています。

（１）バスを利用しない理由



（２）週に１回以上利用している施設ベスト５

	1位		2位		3位		4位		5位		同率		同率	
亀山西 [n=112]	エコータウン	58.0%	亀山駅	20.5%	図書館及び歴史博物館	12.5%	総合保健福祉センターあいあい	11.6%	亀山市役所	10.7%	—		—	
亀山東 [n=116]	エコータウン	49.1%	亀山駅	19.0%	オークワ亀山店	16.4%	マックスバリュー亀山店	11.2%	イオンモール鈴鹿	8.6%	—		—	
亀山南 [n=115]	エコータウン	68.7%	亀山駅	18.3%	図書館及び歴史博物館	9.6%	総合保健福祉センターあいあい	7.0%	亀山郵便局	7.0%	マックスバリュ芸濃店	7.0%	—	
昼生 [n=102]	エコータウン	53.9%	亀山駅	13.7%	下庄駅	12.7%	総合保健福祉センターあいあい	9.8%	イオンモール鈴鹿	7.8%	—		—	
井田川 [n=102]	エコータウン	24.5%	マックスバリュー亀山みずほ台店	21.6%	イオンモール鈴鹿	18.6%	井田川駅	15.7%	総合保健福祉センターあいあい	9.8%	—		—	
川崎 [n=93]	井田川駅	19.4%	エコータウン	17.2%	マックスバリュー亀山みずほ台店	17.2%	イオンモール鈴鹿	15.1%	亀山駅	10.8%	総合保健福祉センターあいあい	10.8%	—	
野登 [n=123]	エコータウン	43.9%	亀山駅	22.0%	マックスバリュー亀山みずほ台店	11.4%	亀山市役所	8.1%	野登郵便局	7.3%	総合保健福祉センターあいあい	7.3%	—	
白川 [n=65]	エコータウン	61.5%	亀山駅	13.8%	JA鈴鹿亀山支店白川出張所	10.8%	総合保健福祉センターあいあい	10.8%	マックスバリュー亀山店	6.2%	—		—	
神辺 [n=92]	エコータウン	55.4%	亀山駅	19.6%	総合保健福祉センターあいあい	12.0%	JA鈴鹿亀山神辺支店	6.5%	亀山市役所	5.4%	図書館及び歴史博物館	5.4%	医療センター	5.4%
関 [n=94]	エコータウン	43.6%	関駅	20.2%	フーズアイランド関店	17.0%	亀山駅	14.9%	関宿街道沿い	11.7%	—		—	
関南部 [n=54]	エコータウン	44.4%	フーズアイランド関店	25.9%	関B＆G海洋センター	11.1%	亀山駅	9.3%	イオンモール鈴鹿	7.4%	図書館及び歴史博物館	7.4%	—	
坂下 [n=66]	エコータウン	40.9%	関駅	19.7%	フーズアイランド関店	19.7%	亀山駅	15.2%	鈴鹿馬子唄会館	15.2%	医療センター	12.1%	—	
加太 [n=97]	エコータウン	41.2%	加太駅	19.6%	亀山駅	13.4%	フーズアイランド関店	10.3%	イオンモール鈴鹿	10.3%	—		—	

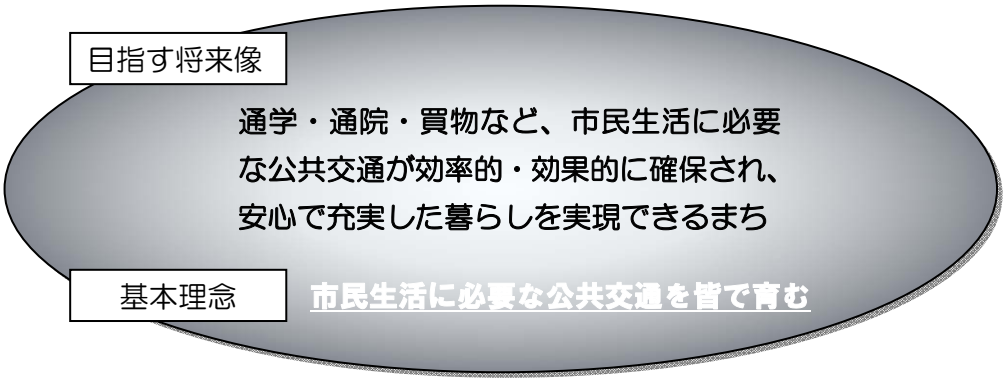
（３）バスで行きたい施設ベスト５

	1位		2位		3位		4位		5位		同率	
亀山西 [n=37]	エコータウン	48.6%	亀山駅	45.9%	総合保健福祉センターあいあい	24.3%	図書館及び歴史博物館	21.6%	亀山市役所	18.9%	—	
亀山東 [n=35]	亀山駅	57.1%	エコータウン	37.1%	亀山市役所	20.0%	医療センター	17.1%	総合保健福祉センターあいあい	17.1%	図書館及び歴史博物館	17.1%
亀山南 [n=47]	亀山駅	51.1%	エコータウン	36.2%	亀山市役所	21.3%	総合保健福祉センターあいあい	21.3%	医療センター	19.1%	—	
昼生 [n=42]	エコータウン	57.1%	亀山駅	40.5%	亀山市役所	38.1%	総合保健福祉センターあいあい	35.7%	下庄駅	33.3%	—	
井田川 [n=51]	井田川駅	45.1%	亀山駅	41.2%	亀山市役所	31.4%	医療センター	27.5%	図書館及び歴史博物館	27.5%	エコータウン	27.5%
川崎 [n=45]	井田川駅	62.2%	エコータウン	31.1%	亀山駅	28.9%	図書館及び歴史博物館	24.4%	医療センター	22.2%	—	
野登 [n=54]	亀山駅	61.1%	エコータウン	37.0%	井田川駅	27.8%	医療センター	25.9%	総合保健福祉センターあいあい	16.7%	図書館及び歴史博物館	16.7%
白川 [n=21]	亀山駅	61.9%	エコータウン	61.9%	医療センター	47.6%	亀山市役所	38.1%	文化会館	28.6%	—	
神辺 [n=31]	亀山駅	58.1%	エコータウン	48.4%	医療センター	25.8%	亀山市役所	22.6%	総合保健福祉センターあいあい	16.1%	図書館及び歴史博物館	16.1%
関 [n=23]	亀山駅	47.8%	エコータウン	34.8%	関駅	30.4%	医療センター	30.4%	文化会館	17.4%	—	
関南部 [n=23]	エコータウン	39.1%	関駅	30.4%	亀山駅	26.1%	関支所	17.4%	医療センター	17.4%	総合保健福祉センターあいあい	17.4%
坂下 [n=25]	関駅	64.0%	亀山駅	56.0%	関支所	52.0%	医療センター	52.0%	エコータウン	48.0%	—	
加太 [n=29]	エコータウン	55.2%	亀山駅	48.3%	加太駅	48.3%	医療センター	34.5%	総合保健福祉センターあいあい	34.5%	—	

出典：亀山市地域公共交通計画

６．公共交通施策

公共交通施策としては、2013（平成 25）年 4 月に「亀山市地域公共交通計画」が策定されています。その計画では以下の将来像のもと、４つの基本目標を掲げています



■ 本市が目指す地域公共交通体系の将来像

【基本目標】

①誰もがまちなかに行きやすく、安全かつ快適にまちなかを巡ることができるまち

・市内各地域の停車所からにぎわいエリア（亀山駅周辺地区）まで 1 時間以内

・にぎわいエリアや地域拠点（副次的市街地：井田川駅周辺、関駅周辺）までは直通もしくは 1 回乗り換え

・健康福祉エリア（医療センター周辺）までは直通もしくは 1 回乗り換え

②利用者増により持続可能な公共交通体系が確立されたまち

・市内バス路線全体の利用者数 40 万人以上（2010（平成 22）年度現況 39 万人）

③住民・行政・交通事業者が一体となって取り組むことにより、利便性の高い公共交通サービスが提供されるまち

・移動環境に対する市民の不満割合 15%以下（2011（平成 23）年度現況 17%）

④マイバス意識が高く、地域に馴染むバス交通を地域が支えるまち

・各地域で生活交通に関する話し合いを定期的に開催

７．交通に関する課題

交通に関する状況を整理すると以下のとおりです。

○ **交通のまとめ**

- 移動のための代表交通手段は、自動車が 80%前後で自動車を中心とした移動であるとともに、医療・福祉、小規模小売店、大規模小売店の利用も 80%以上が自動車利用となっており自動車の依存度が非常に高い状況であります。
- 新名神高速道路（新四日市ＪＣＴ～亀山西ＪＣＴ）が 2018（平成 30）年度に予定されるとともに和賀白川線や亀山関線の整備が予定されるなど、広域道路網及び市内道路網が充実していますが、道路交通量が 10,000 台を超える路線が多く存在し、特に国道 306 号の（主）亀山鈴鹿線より北側の交通量は、15,000～20,000 台／日で混雑度１．５を超えており、ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑へと変化が見られます。
- 公共交通の内、鉄道駅は市内に 5 か所ありますが、日乗車人員は亀山駅の 2,164 人以外は 1,000 人以下で、駅から 800m 圏域の人口カバー率は 14%に過ぎません。また、バス路線は 12 路線が運行され、バス停の人口カバー率は約 70%と高い率ですが、乗車人員は 2010（平成 22）年度からの 5 年間で 16%減少しています。

○交通における課題

①　自動車に依存した都市機能の改善

鉄道やバス交通の利用者は横ばい又は減少傾向にあり、自動車分担率は他の都市に比較して非常に高い割合（約 80%）となっています。これは、本市の地形的な特徴である起伏が多い丘陵地の地形的特徴の要因も考えられますが、今後もこれらの状況が続くことで、公共交通サービスの維持・向上に支障が出ることが予想されるため、公共交通の利用促進に対応した都市形成や少しでも歩いて暮らせる環境に優しい都市への改善に努める必要があります。

②　基幹公共交通である鉄道の有効活用と移動手段の確保

本市の基幹公共交通である鉄道の各駅の徒歩圏人口カバー率は、14%と非常に低く有効活用されていない状態です。一方、市内には自主運行バス網が形成されており、それも含めた公共交通徒歩圏人口カバー率は 71.4%と高い率を示しています。しかし、利用者数は年々減少傾向にあるとともに、運行経費の財政負担が大きいこと、さらには超高齢社会の進行による移動困難者（主に自家用車に乗車（同乗を含む）して、移動できない者）の増加が予想されることから、移動困難者の移動手段や環境に優しい移動手段の確保、財政負担への考慮等を勘案し、基幹公共交通である鉄道の有効活用及び移動困難者の日常生活における移動手段の確保が求められます。